



# ストレージの管理

## SnapCenter Plug-in for VMware vSphere

NetApp  
September 29, 2025

# 目次

ストレージの管理	1
ストレージの追加	1
ストレージシステムを管理する	3
Storage VMの変更	3
Storage VMの削除	4
設定されているストレージタイムアウトを変更する	4

# ストレージの管理

## ストレージの追加

VMをバックアップまたはリストアする前に、ストレージクラスタまたはStorage VMを追加する必要があります。ストレージを追加すると、SnapCenter Plug-in for VMware vSphereでvCenterのバックアップとリストアの処理を認識して管理できるようになります。

- 使用するGUI

VMware vSphere Clientを使用してストレージを追加します。

- 大規模なLUN

SnapCenter Plug-in for VMware vSphere 4.5以降では、ASAアグリゲートで最大128TBの大規模なLUNのデータストアがサポートされます。大規模なLUNの場合、レイテンシを回避するために、SnapCenterではシックプロビジョニングLUNのみがサポートされます。

- VMwareの仮想ボリューム (VVOL)

VVOLデータ保護を使用するには、SnapCenter Plug-in for VMware vSphereおよびONTAP tools for VMware vSphereにストレージクラスタを追加する必要があります。

詳細については、ONTAP Tools for VMware vSphereのドキュメントを参照してください。また、ONTAP toolsでサポートされるバージョンの最新情報については、を参照してください ["NetApp Interoperability Matrix Tool"](#)。

### 開始する前に

ESXiサーバ、SnapCenter Plug-in for VMware vSphere、および各vCenterが同じ時刻に同期されている必要があります。ストレージを追加しようとしたが、vCenterの時間設定が同期されていない場合、Java証明書エラーが発生して処理が失敗することがあります。

### タスクの内容

SnapCenter Plug-in for VMware vSphereは、直接接続されたStorage VMおよびストレージクラスタ内のStorage VMに対してバックアップとリストアの処理を実行します。



SnapCenter Plug-in for VMware vSphereを使用してVMDK上のアプリケーションベースのバックアップをサポートする場合は、SnapCenter GUIを使用してストレージ認証の詳細を入力し、ストレージシステムを登録する必要があります。

- リンクモードのvCenterでは、各vCenterにストレージシステムを個別に追加する必要があります。
- SVMを追加する場合は、Storage VMの名前が管理LIFに解決される必要があります。

SnapCenterでStorage VM名の`_etc\hosts_file`にエントリを追加した場合は、それらのエントリも仮想アプライアンスから解決できることを確認する必要があります。そうでない場合は、アプライアンス内の`_etc\hosts_file`に同様のエントリを追加する必要があります。

管理LIFに解決できない名前のStorage VMを追加した場合、プラグインがそのStorage VM上のデータストアまたはボリュームを検出できないため、スケジュールされたバックアップジョブが失敗します。この場合は、Storage VMをSnapCenterに追加して管理LIFを指定するか、Storage VMを含むクラスタを追加してクラスタ管理LIFを指定してください。

- ストレージ認証の詳細は、SnapCenter Plug-in for VMware vSphereの複数のインスタンス間、またはWindows SnapCenter ServerとvCenter上のSnapCenterプラグイン間で共有されません。

## 手順

- vCenterクライアントのショートカットページで、SnapCenter Plug-in for VMware vSphere (SCV) を選択します。
- SCVの左側のナビゲーションペインで、[ダッシュボード]>\*[ストレージシステム]\*を選択します。
- [ストレージシステム]ページで、\*[追加]\*オプションを選択します。
- Add Storage System \* ウィザードで、次の表に示す基本的な Storage VM またはクラスタ情報を入力します。

このフィールドでは...	操作
ストレージシステム	ストレージクラスタまたはStorage VMのFQDNまたは管理LIFのIPアドレスを入力します。SnapCenter Plug-in for VMware vSphereでは、異なるクラスタにある同じ名前のStorage VMは複数サポートされません。
認証方式	資格情報または証明書のいずれかを選択します。2種類の証明書がサポートされています。 " <a href="#">自己署名証明書</a> " " <a href="#">CA署名証明書</a> "
ユーザ名	このフィールドは、認証方法として[Credentials]を選択すると表示されます。Storage VMまたはクラスタへのログオンに使用するONTAPユーザ名を入力してください。
パスワード	このフィールドは、認証方法として[Credentials]を選択すると表示されます。Storage VMまたはクラスタのログインパスワードを入力してください。
証明書	このフィールドは、認証方法として[証明書]を選択すると表示されます。証明書ファイルを参照して選択します。
秘密鍵	このフィールドは、認証方法として[証明書]を選択すると表示されます。秘密鍵ファイルを参照して選択します。
プロトコル	ストレージプロトコルを選択します。
ポート	ストレージシステムが受け入れるポート。-443 (HTTPS接続) -80 (HTTP接続)
タイムアウト	SnapCenter Plug-in for VMware vSphereが処理をタイムアウトするまでに待機する秒数を入力します。デフォルトは60秒です。

このフィールドでは...	操作
優先IPアドレス	Storage VMに管理IPアドレスが複数ある場合は、このボックスをオンにして、SnapCenter Plug-in for VMware vSphereで使用するIPアドレスを入力します。* 注：* IP アドレスを入力するときは角かっこ（[]）を使用しないでください。
イベント管理システム（EMS）およびAutoSupportの設定	保護が適用された場合、リストア処理が完了した場合、または処理が失敗した場合にEMSメッセージをストレージシステムのsyslogに送信したり、AutoSupportメッセージをストレージシステムに送信したりする場合は、該当するチェックボックスを選択します。AutoSupport通知を有効にするには、[失敗した操作に関するAutoSupport通知をストレージ・システムに送信する*]チェックボックスと[SnapCenter サーバ・イベントをsyslogに記録する*]チェックボックスをオンにします。
SnapCenterサーバのイベントをsyslogに記録	SnapCenter Plug-in for VMware vSphereのイベントをログに記録するチェックボックスをオンにします。
処理に失敗した場合に AutoSupport 通知をストレージシステムに送信します	データ保護ジョブが失敗したときにAutoSupport通知を送信する場合は、このチェックボックスをオンにします。また、Storage VMでAutoSupportを有効にし、AutoSupport Eメールを設定する必要があります。

## 5. [追加]\*をクリックします。

ストレージクラスタを追加した場合は、そのクラスタ内のすべてのStorage VMが自動的に追加されます。自動的に追加されたStorage VM（「暗黙的な」Storage VMと呼ばれることがあります）は、クラスタの概要ページにユーザ名ではなくハイフン（-）が表示されます。ユーザ名は、明示的なストレージエンティティに対してのみ表示されます。

## ストレージシステムを管理する

VMware vSphere Clientを使用してVMまたはデータストアをバックアップまたはリストアする前に、ストレージを追加する必要があります。

### Storage VMの変更

VMware vSphere Clientを使用して、SnapCenter Plug-in for VMware vSphereに登録されてVMのデータ保護処理に使用されるクラスタおよびStorage VMの設定を変更できます。

クラスタの一部として自動的に追加されたStorage VM（暗黙的なStorage VMと呼ばれることがあります）を変更すると、そのStorage VMは明示的なStorage VMに変更され、クラスタ内の残りのStorage VMを変更することなく個別に削除できます。証明書を使用した認証方式を使用している場合、[ストレージシステム]ページにユーザ名がN/Aと表示されます。ユーザ名はクラスタリスト内の明示的なStorage VMに対してのみ表示され、ExplicitSVMフラグがtrueに設定されています。すべてのStorage VMは、常に関連するクラスタの下に表示されます。



SnapCenter GUIを使用してアプリケーションベースのデータ保護処理用にStorage VMを追加した場合は、同じGUIを使用してそれらのStorage VMを変更する必要があります。

#### 手順

1. SCVプラグインの左側のナビゲータペインで、\*[ストレージシステム]\*をクリックします。
2. [ストレージシステム]ページで、変更するStorage VMを選択し、\*[編集]\*を選択します。
3. [Edit Storage System\*](ストレージ・システムの編集) ウィンドウで新しい値を入力し '[Update](アップデート)をクリックして変更を適用します

## Storage VMの削除

VMware vSphere Clientを使用して、vCenterのインベントリからStorage VMを削除できます。



SnapCenter GUIを使用してアプリケーションベースのデータ保護処理用にStorage VMを追加した場合は、同じGUIを使用してそれらのStorage VMを変更する必要があります。

#### 開始する前に

Storage VMを削除する前に、Storage VM内のすべてのデータストアをアンマウントする必要があります。

#### タスクの内容

削除するStorage VM上のバックアップがリソースグループに含まれていると、そのリソースグループの以降のバックアップは失敗します。

#### 手順

1. SCVプラグインの左側のナビゲータペインで、\*[ストレージシステム]\*をクリックします。
2. [\*ストレージシステム\*] ページで、削除する Storage VM を選択し、[\*削除\*] をクリックします。
3. [ストレージ・システムの削除] 確認ボックスで [ストレージ・システムの削除] のチェックボックスをオンにし '[はい\*] をクリックして確定します\*注：ESXiホスト7.0U1以降のリリースのみがサポートされます。

"[VMware vSphere Client Serviceを再起動します。](#)"です。

## 設定されているストレージタイムアウトを変更する

以前は正常に実行されていましたが、ストレージシステムが設定されたタイムアウト時間を超えるまでSnapCenter Plug-in for VMware vSphereが待機している間にバックアップが失敗することがあります。この状況が発生した場合は、設定されているタイムアウトを長くすることができます。

次のエラーが発生することがあります。 `Unable to discover resources on SCV: Unable to get storage details for datastore <xxx>...`

#### 手順

1. SCVプラグインの左側のナビゲータペインで、\*[ストレージシステム]\*をクリックします。
2. Storage Systems (ストレージ・システム) ページで、変更するストレージ・システムを選択し、\*Edit

(編集) \* をクリックします。

3. [Timeout] フィールドで、秒数を増やします。



大規模な環境では180秒を推奨します。

## 著作権に関する情報

Copyright © 2025 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を隨時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5225.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

## 商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。